

第33回日本老年医学会総会参加報告

富山県農村医学研究会 長谷田 祐作

はじめに

第33回日本老年医学会総会は平成3年11月3日より同5日の3日間にわたって横浜市にて開催された。

会場は横浜市西区みなとみらい1-1、横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）である。会場などの配置は別掲の通りである。

私は昨年に引続いて今回も参加することが出来たのでその概要を述べ会員諸兄の参考に資したいと思う。

尚、本年は隔年毎に同時開催の予定となっている日本老年学会総会（第17回・会長は五島雄一郎氏）、第33回日本老年社会学会総会（会長・長谷川和夫氏）、第15回日本基礎老化学会、更に今年より参加が認められた日本老年歯科医学会も同時開催となったので殊のほか活気が感じられた次第であった。

また本年は第4回アジア・オセアニア国際老年学会議が10月31日より11月3日午前中に行われた関係で11月3日午後1時30分から日本老年学会総会が開始され午後2時に日本老年学会の会長講演、同2時30分から日本老年学会学際講演、同3時30分に日本老年学会パネルディスカッション「各国の老年学の卒前・卒後教育に関する比較」が行なわれた。

第33回日本老年医学会総会は11月4日午後1時開会、終了後会長講演が始められ、その後、教育講演(I)の順で進行がはかられた。

I. 会長講演について

第33回日本老年医学会総会は東京大学医学部老年病学教授・折茂肇氏を会長として開催

され会長講演は「老年医学の現状と将来の展望」を演題とし11月4日午後開始された。

氏はスライドを駆使し10項目を挙げ熱弁を披露、予定時間をやや超過、老年医学の最終目標は天寿を全うするまでQOLの高い生活を維持する方策を研究することに在ることを述べ満場の聴衆に深い感銘を与えた。詳細については次の機会に譲ることとし、ここにはその10項目を略記することとしたい。

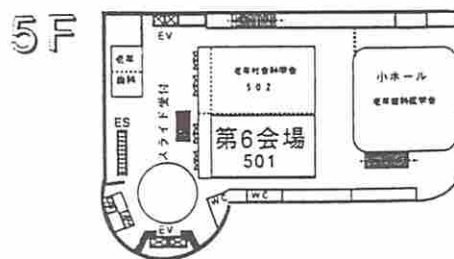
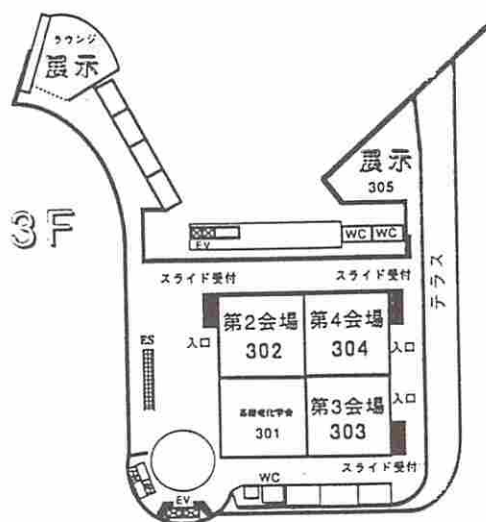
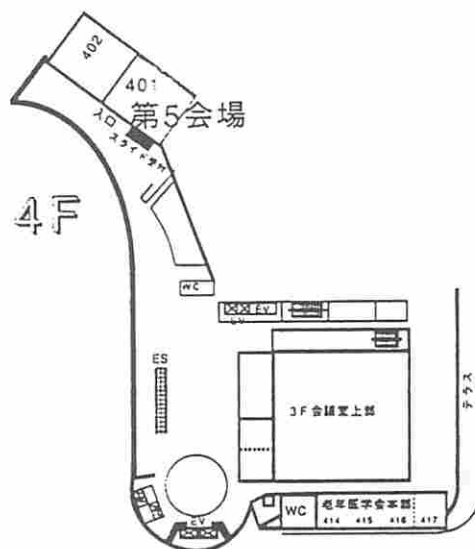
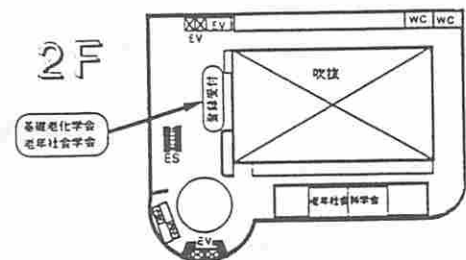
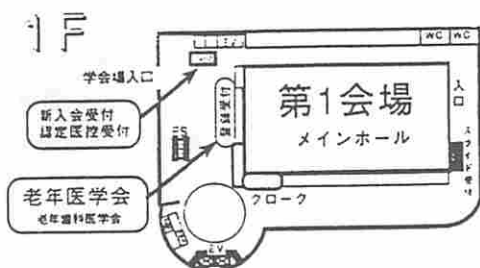
1. 老化の概念
2. 老化の指標
3. 老年者の定義
4. 老年者疾患の特徴
5. 老年者特有病態
6. 老年者の正常値
7. 老年者における疾患の診断基準
8. 老年者の薬物療法
9. Aging Science
10. 予防医学の重要性

II. シンポジウム

シンポジウムは「老年医学における基礎と臨床の接点」をテーマとし、11月4日午前9時に始められた。老年医学の領域には多数の重要な疾患・病態が認められているが今回は特に動脈硬化、骨粗鬆症ならびに痴呆という老年期と関係深い3者を選び、それぞれについて動物実験を主にした基礎面と、人における臨床面の双方から各一人ずつのシンポジストに担当していただく企画となったことのであった。

以下各演者と題目を挙げておきたい。

会場案内図



- a. 動脈硬化の発生機序・予防・治療
—動物モデルを用いた基礎的研究—
長野 豊・北 徹(京都大学老年医学)
- b. 加齢と血栓性動脈硬化疾患
山本 実・秦 葭哉(杏林大学高齢医学)
- c. 動物実験から見た骨粗鬆症の病態
奥村秀雄(愛媛大学整形外科)
- d. 臨床から見た骨粗鬆症における骨塩量
西沢良記・三木隆己(大阪市立大学第二内科)
- e. 痴呆研究のための動物モデルの探究
島田厚良(京都大胸部研老化生物学)
- f. アルツハイマー型痴呆の評価と治療
本間 昭(東京都老人総合研究所精神医学)

III. 招待講演

南カリフォルニア大学 E. L. Schneider 博士による招待講演では米国での老年者の増加、それに付随して増大する医療費につき報告し、健康で良好な老年を迎えるためには疾患の予防と健康教育が必要との認識を示した。

IV. 特別講演

今年は作家遠藤周作氏が選ばれ「私の考える老年」と題し講演が行われた。全く新らし

い企画であり、是非拝聴したいと思って居たが急な所用のため欠席せざるを得なかった。友人の話では人格の尊重を含めた良き講演で強い感銘を受けたとのことであった。

V. その他

一般演題として259題、例年の如く各セッションを通じて発表があり、教育講演は(I)9題(II)4題が施行されたことを付記しておきたい。

おわりに

この学会に参加の機会を与えて頂いた医療法人社団正啓会理事長井村正幸氏に厚く謝意を表する次第である。

なお、第34回日本老年医学会総会は平成4年11月19日(木)より3日間にわたり金沢市にて開催の運びとなって居り、会員諸兄始め多数ご参加の程を期待致したい。

文 献

- 1) 吉峯 徳：老年医学会学会誌，日本医事新報 49：No 3530，平成3. 12. 21
- 2) 日本老年医学会雑誌 巻頭 Vol. 29, No. 1, '92
- 3) 同上 巻頭 Vol. 29, No. 2, '92